

.ポリュームの変化

ICEROSSは、コンプレッション効果により断端の浮腫を取り除き、断端の健康を増進します。一方このような結果、断端は小さく締まっていきます。また、遠位懸垂を用いた場合、ポンプ効果が高まり、この傾向が顕著になります。

このような、断端の縮小は初めてICEROSSを使用する場合に多かれ少なかれ発生します。ICEROSSを用いた事前の断端形成は、対処方法として大変有効です。



採型2週間前にサイズ選択を行い、ICEROSS 2カラーを事前に装着予定者に渡します。新規切断者の場合は、ポストオペプログラム(術後のICEROSSによる断端形成プログラム)を参考にし、ライナーにより段階的に断端を形成します。既存のPTBユーザーからの切替の場合は、夜、最大4時間程度を目標に段階的にライナーの装着時間を増やし断端を形成します。

上の写真は、切断術直後から、ICEROSSを用い断端形成を試みた結果を示しています。段階的に断端の浮腫が取り除かれ、術後19日目に義足装着に向く、良好な断端形成に成功しています。

ソケット製作後、断端の縮小が発生した場合は、ソックスを装着して対応します。

.ICEROSSと汗

ICEROSS装着当初は、これまで経験したことのないストレスがかかるため、大変多くの汗をかきます。順応期間経過後(2~4週間)、ライナーと断端の間に空気が存在していなければ、通常の発汗のメカニズム(暑い大気を感じ汗を出す)が働かないため、汗をかかなくなります。但し、汗をかく機能は残っていますので、過度の気候変化や体温の上昇が起これば汗をかきます。上記の事前装着はICEROSSに慣れるということから、発汗対策として大変有効です。また、ICEROSSのタルク処理は、ICEROSS義足装着当初のストレスを緩和でき、

汗の量の軽減や、順応期間の短縮に有効です。順応期間経過後、汗が残る場合には、断端とICEROSSの間に空気が僅かでも残っていないかを確認します。気候変化やスポーツなどで汗をかいた場合、以下の2点に注意します。

- 1) 汗を残したままにしない。適宜濡らした清潔なタオルでライナーと断端をぬぐい汗に対処する。
- 2) ICEROSSと断端間の吸着力が失われるので、近位懸垂装置など、義足の抜け落ちへの対処を予めしておく。

.ICEROSSの手入れ

ICEROSSの深刻なトラブルの多くは、装着者の日ごろの手入れ不足から発生します。簡単な手入れでICEROSSは長期間安全にお使い頂けます。

装着後は、断端とライナーを無香料の弱酸性(pH5.5程度)の石鹸であらい、水で良くすすぐ。洗剤を使うとシリコンオイルの抜けが早まり製品の劣化に繋がります。洗った後のICEROSSは表面の水気が乾けばすぐに装着することができます。(シリコンは水分を吸いませんでスタンドで乾さなくても大丈夫です)ライナー外側布カバーには

汗などの老廃物が残り、臭いの原因などになります。内表面同様、石鹸できれいに洗います。洗った後は乾いたタオルに押し付け水気を取り除きます。

装着前に、皮膚とライナーが湿っておらず、清潔であることを確認します。

糖尿病の合併症を原疾患とする切断者の方などで、肌が乾燥しやすい方は、肌の手入れが重要です。断端の状態を良好に保つため、夜間ローションを塗布し、肌の潤いを保ちます。ソックスを常備し、断端ポリュームの変化に適切に対処するよう癖づけます